

令和4年度 輪之内町立福東小学校 学校評価書

学校の教育目標 **豊かな心 たくましい力のある子**
 経営の重点 **ひたむきさと活力（規律＋活気）あふれる学校**

評価基準 A(3ポイント):実践し、効果をおけることができた。
 B(2ポイント):実践し、一心の効果をおけることができた。
 C(1ポイント):実践し、僅かだが効果をおけることができた。
 D(0ポイント):実践したが、効果をおけることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	2学期までの成果	来年度への改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営 地域との連携による学校づくり	82	A	・勤務時間カードを導入したことで、自分たちの勤務時間をより正確に把握することができるようになった。 ・校長先生のリーダーシップのもと、「チーム福東」として、学校全体で統一すべきことなどを職員全体で把握することができた。 ・行事(運動会、修学旅行、150周年、管理訪問、ひびきあいの日など)を節目として、全校で取り組めた。	・コロナで離れかけている地域力をもとの形にもどせるように、また、見通しを持って位置づけたりお礼が言える子を育てていきたい。 ・早く帰る日には、職員全体で雰囲気を作り、軽重をつけた勤務を行っていく。 ・ケース会等で話し合いが遅い時間までやっていることが多いのでもう少し時間を決めてやれるよい。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	70	B	・国語の授業研では、全研前には模擬授業を行い、全職員に視点についても共通理解を得て、授業研究することができた。 ・アレルギー対応研修やいじめ不登校等未然防止アドバイザーによる研修を行い、全校で共有できた。	・教育計画の現職研修計画にもとづき、担当者だけでなく他の職員にも学んだことを伝え合う場をもちたい。月行事に位置づける。 ・学校経営の運営目標につながる研修をしているという認識をもつために、一人ひとりの感想を交流して学んだことを生かす。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	67	B	・個の実態把握をして、児童が興味・関心をもって取り組める授業を行うことに努めた。児童が意欲をもてる取り組みが増え、児童に考えさせながら進めることができた。 ・国語科の研究を中心に、主体的に対話的な授業ができるように、指導案検討や、模擬授業などを行い、授業力の向上につなげることができた。 ・声の大きさ、指名されたときの返事、話し方について全班的に取り組み、声の大きさを意識して発言できた児童が増えた。	・国語科を中心としたカリキュラム・マネジメントの視点をさらに磨き、単元指導計画に位置づけるなどしていくとよい。 ・何のために、誰に伝えるためなどゴールの姿を子ども自身に持たせ、積極的な姿を認め励ます。 ・主体的に学ばせるために、学習活動を工夫し個人追求を十分とする。
【道徳教育】 自己を見つめる力や他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	70	B	・道徳のやり方を学年全体でそろえるなどして、自分の生き方を考える道徳の授業を行うことができた。 ・道徳主任からのよい実践を学ぶことで、授業を見直すことができた。 ・いのちの教育に関わり、獣医さんから学ぶ授業を位置付けたこと、心にひびき授業となった。	・道徳の授業を中心に自らの行動に置き換え、振り返ることができるようにしていく。 ・道徳で学んだ価値をその時間だけで終わらせず、継続的に自分を見つめる時間をつくる必要がある。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	77	B	・外国語専科の先生と、ALTの先生の連携がうまくとれており、子どもたちが主体的にコミュニケーションがとれる授業実践がされていた。	・専科の先生とALTの先生に加え、担任も活動に参加できる機会を設け、児童と一緒にできる場面を増やしていく。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ひるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	73	B	・総合的な学習を核として、教科横断的な単元指導計画を作成することで、他教科で活用した知識を総合的な学習に生かそうという意識をもつことができた。 ・2学期に中間交流を位置づけたことで、3学期の発表に向けて何が足りないのかに気づくことができた。	・単元指導計画に探求の視点を取り入れ、今何をするべき時間なのかを明確にしていく。 ・1・2学期の学年部の交流は小グループで交流すると、お互いにアドバイスがしやすいと思う。それを受けて、3学期に国語の技を使い説得力のある発表ができるように仕上げていくとよい。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（QU検査の活用）	73	B	・各学年で様々なキャンペーンを行い、学級集団として高まっていた。学期末には宝物発表会を行い、集団の高まりを児童が感じることができた。 ・行事や常時活動等に向けた話し合い活動で、児童主体で進める取り組みができてきた。 ・学級の目指すところや課題を明らかにし、取組表を作って自分たちの生活を毎日振り返りながら進めている学級が見られた。	・学級の課題を解決できるように学級で話し合い、自分たちで取り組めるようにしていく。 ・年度末には、次の学年の生活の様子を見学する活動を取り入れるなど、次学年の見通しを持たせる取り組みを行う。 ・どの学級も年度末にどのような学級で終わりたいかを学級目標を元に考えて、取組などを進めていくようにする。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	児童生徒理解の深化を図り、教職員と児童生徒との信頼関係の構築	70	B	・打ち合わせで気になる児童の交流を取り入れることで、自分の学年だけでなく、他学年の様子を共通理解することができた。 ・「にこにこアンケート」により、子どもたちの現状についてよくとらえることができた。教育相談も丁寧に行われ、困り感をかきいれ、取り除くよう努力がきている。 ・支援員さんからの情報交流会を位置付けたことで、現状分析ができた。	・学校と保護者の意思疎通を重点に置いた対応を行っていく。特に、不登校やいじめの対応については、対面の指導や相談を原則とし、日延べしないよう素早い対応を行っていく。 ・学級の人間関係のこじれが児童同士のトラブルにつながるため、構造的グループエカウナター(SGE)などを定期的に行ってみたらどうか。 ・「にこにこアンケート」を活用し、児童一人一人の困っていること、悩んでいることなどに対応していく。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置づけと事前・事後指導の充実	73	B	・町探検や、菊の栽培体験で、地域のことを知ることが地域のことを愛し、よりよい大人になろうという意識を育てることができた。 ・「福こ掃除」を全校体制で行うことで、低学年が中高学年のお手本となる姿を間近に見て学び、どの子も黙って真剣に掃除する体験を継続することができた。	・キャリアファイルをどのように使っていくのかということ、キャリア担当が方針を立て、自分でできるように支援する。できたことを認め励ます。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	82	A	・欠席や来室の状況は落ちついており、8の字とびやボールバスラーなどを毎日実施したことで元気な姿がみられた。 ・命を守る訓練に向けた事前打ち合わせや、終わった後の反省を確実にし、児童の命を守るための最善策を考えることができた。	・寒くなる外に出たがらない児童が増加してくる。防寒着、防寒具の使用等も検討しながら、楽しく外で遊ぶよう保健体育委員会中心に工夫していく。 ・臨機応変な訓練を行うには、「〇〇先生がいいる場合は、どう動くか。」「避難経路にガラスなどの障害物があったときどうするか」といったような想定を日頃から意識できるようにする。職員のみならず訓練も必要。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基礎となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	70	B	・校内支援委員会の実施や、個別の支援計画の作成、ケース会の実施などにより、一人一人の特性に合わせた支援を行うことができた。 ・特別支援学級へ措置替えした児童が、よい方向に容容してきているのは、担任を中心として、支援を続けている成果だと感じる。	・保護者の要望に即して対応することを徹底するとよいと思います。学校の方針も重要なため、保護者がその内容を理解されて学校側と同じ方向を向いて指導にあたっていただけるようにするには、まずは聞く。学校の方針を押しつけるような雰囲気にはしない。 ・自立活動のどの項目に課題があるかを分析して、個別の教育支援計画を見直ししていく。
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する確かな人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となつたいじめや差別を許さない学校・学級づくり	70	B	・かがやき見つけの取り組みを通して、学級全員のよいところを見つけてよう意識させることができた。 ・ひびきあひ集会に向けて、各学年で人権を大切にすること取り組みを行うことができた。	・かがやき見つけを双方向で意識させて取り組む。良さについて、誰の(何の)、どのような様子か、どうだったか?について交流する形にしていく。 ・下校時にいじめ〇宣言を言うことが形だけにならないように、普段からそれに照らし合わせて指導を続けたい。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実	73	B	・授業の中でICTを使う機会が増えてきた。児童も3年目になり、タブレットを使いこなすことができていく。 ・それぞれの学年がレベルに合わせて、タブレットを使った授業を行うことができた。	・打ち合わせで情報教育の交流を行うなど、タブレット学習をより身近にする努力をしていく。 ・作業効率を上げるための活用方法を検討していく。また、安定して利用ができるようなアプリの使用やネットワークの利用を工夫していく。

【学校関係者評価】

- ・デスクガードを外したことにより、授業中の声比以前も大きくなってきた。
- ・授業中に子どもたちが話し合いなどをする姿から、雰囲気明るくなってきたことを感じる。
- ・面白い本に出会わせ、本に親しませることや、シャワーのように読み聞かせをすることが必要である。
- ・生き生きとした表情で、子どもたちが一生懸命合唱に取り組んでいる姿がよい。
- ・あいさつをする声比以前も小さくなっているし、自分からあいさつできない児童が多い。
- ・肥満傾向の児童がいるので、運動に親しませていくとよい。
- ・鉛筆はしっかりと削り、丁寧に字を書くように指導を行うとよい。